

家畜飼養学特論 (2 単位)

担当者氏名 谷口信和

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

今日の日本の畜産・酪農について、(1)農林水産省生産局畜産部が毎年作成・更新している「畜産の情勢」最新版を利用して畜種ごとに詳細に検討し、現状と課題の全体像を正確に把握する、その上で、(2)農林水産省生産局畜産部畜産振興課と消費・安全局畜水産安全管理課が毎年作成・更新している「飼料をめぐる情勢」によって、飼料需給の全体的な構造、日本における飼料生産の状況、飼料穀物をめぐる需給状況、飼料の安全確保の視点から詳細に検討して、日本における家畜飼養をめぐる現状と課題の観点から把握することをめざす。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

畜産の現状酪農の現状畜産物消費の現局面畜産物輸入飼料需給飼料生産の現状飼料用米・WCS 用稲食料自給と畜産物

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	ガイダンス	・ 日本の畜産・酪農をめぐる全体的な構造を講義し、「畜産をめぐる情勢」の活用方法を説明する	①事前に「畜産をめぐる情勢」と「飼料をめぐる情勢」を受講者に配布して、予習をしてきてもらう。
2	牛乳・乳製品をめぐる需給関係 ①乳用牛の飼養動向	・ 乳用牛の飼養動向を全国・北海道・都府県に分けて詳細に論じ、その現状と問題点を明らかにする	②その上で、毎回の該当・関連箇所をコメントール方式で読んでもらい、担当者が要約し、論点を整理する。
3	同上②生乳需給動向	・ 生乳需給の構造と推移から現状と問題点を解明	③これに基づき教員が掘り下げた質問をしたり、より詳しい解説をしながら、行政文書の背後にある実態認識を吟味することにした。
4	牛肉の需給関係 ①肉用牛の飼養動向	・ 肉用牛の飼養動向を繁殖牛と肥育牛に分け、全国・北海道・都府県・南九州について検討する	④毎回の該当箇所に止まることなく、配付資料の他の箇所を参照したり、他の文献を利用する。
5	同上②牛肉需給動向	・ 和牛・F1・乳雄ごとに新たな需給動向を解明	
6	豚肉の需給関係 ①豚の飼養動向	・ 豚の飼養動向を繁殖・肥育の一貫経営化の進展という視点から構造的に明らかにする	
7	同上② 豚肉需給動向	・ 豚肉需給を牛肉・鶏肉との代替性の視点から解明	
8	鶏肉の需給関係 ①ブロイラーの飼養動向	・ ブロイラー及び地鶏の飼養動向を明らかにするとともに鋭い立地集中傾向の意味を吟味する	
9	同上②鶏肉需給動向	・ 鶏肉消費が肉類消費に占める新たな意義を解明	
10	鶏卵の需給関係 ①採卵鶏の飼養動向	・ 採卵鶏の飼養動向をブロイラーとの対比で明らかに輸入飼料と消費地の関連から検討する	
11	同上② 鶏卵需給動向	・ 液卵輸入の動向を踏まえ鶏卵の需給構造を解明	
12	飼料の需給の全体像	・ 濃厚飼料依存型日本畜産の特質を明らかにする	
13	飼料生産の状況	・ 粗飼料生産の変化の視点から最近の特徴を検討	
14	穀物飼料の状況	・ 輸入濃厚飼料の飼料米等による代替状況を分析	
15	飼料の安全確保	・ GMO トウモロコシ等も含めた安全性問題の検討	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

農林水産省が適宜公表する「畜産をめぐる情勢」と「飼料をめぐる情勢」を必読資料とし、関連資料を適宜配布する。

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本指針（2015 年 3 月）

養豚農業の振興に関する基本方針（2015 年 3 月）

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

報告（80 点）および口頭試問（20 点）による評価。

◆オフィスアワー

谷口： 毎週月曜日の 10:00～11:30 に研究室にて相談に応じる。

◆その他受講上の注意事項

特になし。
